

コロナ禍における特許検索競技大会の開催

Patent Search Grand Prix 2021 under the influence of COVID-19

一般財団法人工業所有権協力センター（IPCC） 研究所首席研究員

津幡 貴生

令和元年11月より現職

✉ tsubata-takao@ipcc.or.jp

☎ 03-6665-7877

一般財団法人工業所有権協力センター（IPCC） 企画室企画部推進課課長補佐 弁理士

田中 麻衣

令和2年4月より現職

✉ tanaka-mai@ipcc.or.jp

☎ 03-6665-7877

1 はじめに

新型コロナウイルス感染症により全世界において人々の安全で安心な生活が脅かされ、経済活動も大きな影響を受けています。感染拡大を抑制するため三密の回避、移動制限や不要不急の外出自粛、ソーシャルディスタンスの確保等、行動の変容が求められ、それに伴って人々の生活様式が大きく変わり、ニューノーマルな時代へと突入しつつあります。

これにより、学校や企業における活動環境も大幅に変化し、人と人が触れ合うことを回避した非接触型、或いは非対面型のビジネスモデルが数多く生み出されてきております。

このような時代背景を受けて、一般財団法人工業所有権協力センター（IPCC）が2013年度から主催する特許検索競技大会（毎年9月開催）も少なからず影響を受けています。

これまでの特許検索競技大会は、IPCCが主要都市（東京、大阪、名古屋等）に用意した会場での大会開催（会場開催）形式で実施していたこともあり、新型コロナウイルスの感染が拡大した2020年度は大会そのものを中止せざるを得ませんでした。しかし、2021年度は

たとえ会場開催形式での開催が困難となった場合でも、外出や密を避け安心できる受験環境下での大会参加を可能とする「リモート開催」形式での実施に向けて準備を

特許検索技能評価
特許検索競技大会 2021 リモート開催決定!
2021年 9/11土

◆◆◆ 2021年大会はご自宅や勤務先等から気軽に参加できる「リモート開催」により実施します!
リモート開催とは、ご自宅や勤務先にてインターネットに接続可能なPCから専用特許検索DB等を使用して受験する形式です。従来の会場開催と同様に、本大会で「特許検索競技大会特設サイト」をご覧ください。
大会開催の受験・結果の発表等は、E-mail等を使用します。

申込期間 2021年 7月 1日(木)午前10時～ 2021年 7月30日(金)午後 5時	コース・定員 ■スチューデントコース(学生・研究者等初心者向け) 【試験時間】 10:00～11:30(1時間30分) 【定員】 100名 ■アドバンストコース(上級者向け) 【試験時間】 12:30～16:30(4時間) 【定員】 500名
申込方法 ■インターネット申込 本誌下「特許検索競技大会特設サイト」の参加申込フォームよりお申し込みください。(申込期間中の申込はできません)	参加費 ※解答キートン代 ■スチューデントコース 1,000円(税込) ■アドバンストコース 3,000円(税込)
開催方法 ■リモート開催のみ ※認定・表彰について リモート開催では不正監視等が行えず審査に対する公正な評価ができません。また、本大会で「特許検索競技大会特設サイト」をご覧ください。 ※リモート開催では団体での参加はできません。	主催 一般財団法人工業所有権協力センター 共催 (学芸) 一般財団法人日本特許情報機構 協賛 (学芸) 特許庁 独立行政法人工業所有権情報・研修館 中部経済産業局 近畿経済産業局 一般財団法人日本知的財産協会 協賛 (学芸) A T I S (技術情報サービス協会) 一般財団法人情報科学技術協会 協賛 (学芸) 株式会社日立製作所 株式会社日立システムズ 株式会社日立ソリューションズ株式会社 株式会社日立システムズ株式会社 トヨタ自動車株式会社 日本アイ・ビー・エム株式会社 富士フイルムビジネスイノベーション株式会社 太陽電池工業株式会社 三井化学株式会社 三菱重工業株式会社 ヤマハ株式会社 ライオン株式会社 株式会社コニカ 株式会社HII

特許検索競技大会特設サイト
https://www.ipcc.or.jp/contest/

【問い合わせ先】 IPCC 一般財団法人工業所有権協力センター
企画室企画部推進課課長補佐 弁理士
〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1
電話 03-6665-7877 メール kikaku-bu@ipcc.or.jp

図1 特許検索競技大会 2021 チラシ

進めてきました。9/11（土）に実施した特許検索競技大会2021は、当初は会場開催の可能性も検討してありましたが、感染状況の収束の見込みが立たなかったことから、会場開催は中止し、「リモート開催」及びスチューデントコースの「サテライト開催」のみ実施することとなりました。

本稿では、新たな開催形式として実施することとした「リモート開催」について紹介します。

なお、特許検索競技大会の紹介や大会への参加の意義等については、これまでに発行された Japio YEAR BOOK¹にて紹介しておりますので、特許検索競技大会に興味を湧いた方は、こちらについても是非お読みいただければ幸いです。

2 特許検索競技大会における「リモート開催」

(1) 誕生の経緯と背景

2020年度は参加者の安全を配慮するため、競技大

会の開催を断念しましたが、これまで競技大会に参加されてきた方々より、「自分の調査能力を定期的に測ることができる唯一の場である競技大会を、コロナ禍でも安心して参加できる形式で開催してほしい」との声が寄せられ、これに応えるべくインターネットを利用した「リモート開催」を創設することにしました。

(2) リモート開催の概要

競技大会には、参加者のレベルに応じた2つのコース（学生等初心者向けのスチューデントコース及び、上級者向けのアドバンストコース）がありますが、今回新たに創設したリモート開催は両コースともに対応しております。いずれのコースにおいてもインターネット回線に繋がるパソコンさえあれば、自宅や勤務先等、普段から使用している安心できる環境の下でリラックスしながら競技大会の問題を解くことができます。なお、スチューデントコースでは、大会問題の参照から解答入力及び提出までを、専用のWEB画面とJ-PlatPatを併用して

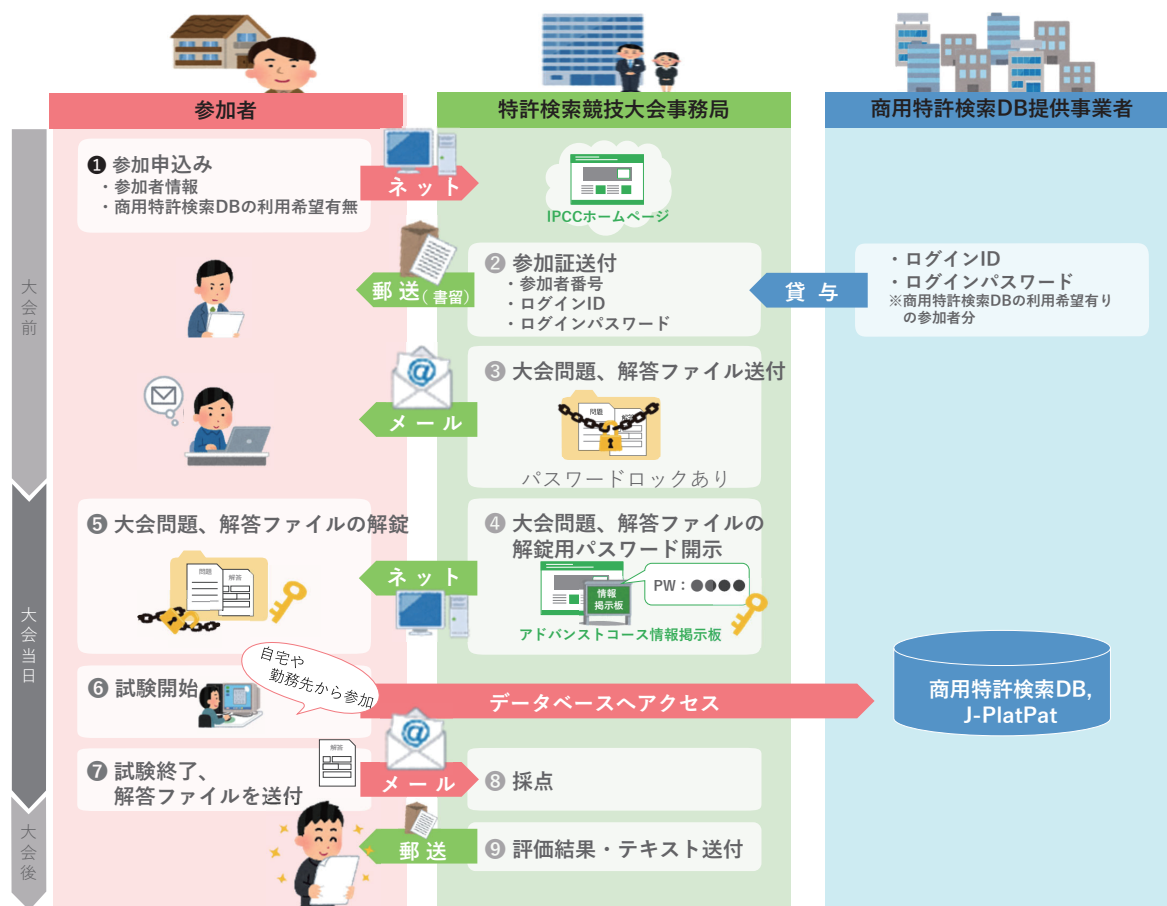


図2 リモート開催の流れ

1 特許検索競技大会の紹介記事 Japio YEAR BOOK2013、同2018、同2019



行うものであり、その仕組みは、過去の Japio YEAR BOOK²にて紹介済みのため割愛させていただき、本稿ではアドバンストコースにおけるリモート開催について紹介いたします。

(3) 開催形式

リモート開催を受験する参加者の大会当日の流れとしては、自宅等からの参加者はインターネットを経由して受領した競技大会問題用紙（PDF ファイル）と、解答記入ファイル（Excel ファイル）を使用して、全参加者が所定の時刻に一齐に試験を開始します。試験を開始した後は商用特許検索データベース等を使用しながら、決められた時間内（4 時間）で解答を作成し、試験終了後に記入済みの解答記入ファイルをインターネット経由で大会事務局に提出します。

しかしながら、これまでの会場開催とは異なり、競技大会問題用紙及び解答記入ファイルの送付や商用特許検索データベース（DB）の利用に関して特に気を付けなければならない点がありました。

<競技大会問題用紙等の配付方法>

受験で使用する競技大会問題や解答ファイル等は、全て電子媒体にて大会事務局から自宅等あてに事前送付により提供します。これらを全参加者へ送付するにあたっては E-Mail を通じて行いますが、配信から受信するまでに要する時間が参加者ごとに異なる可能性があり、メールシステムによっては、迷惑メールフォルダ等の想定していない場所に振り分けられる等、大会事務局からの連絡に気が付かず大会当日を迎えてしまうといったトラブルが想定されました。

このような電子媒体の受け渡しに関するトラブルを避けるため、競技大会問題等の電子媒体をパスワード保護した上で、大会開催日の一週間前に E-Mail の添付ファイルにて事前に送信することにしました。なお、メールを受信した参加者は、受信したことを大会事務局宛に返信メールで連絡し、返信のない参加者には電話等で受信状況について確認することで、競技大会問題等の確実な受け渡しを行いました。

<競技大会問題等の解錠用パスワードの開示方法>

E-Mail の添付でパスワードで保護された電子媒体を送付した場合に、相手への解錠するためのパスワードの通知方法については、パスワード付の電子媒体を送付した直後に別の E-Mail を送付して通知することが一般的な方法ですが、リモート開催における競技大会問題等の電子配付に関しては、大会開始直前にパスワードを送付した場合に E-Mail の授受にかかるタイムラグを回避する必要があることから、この方法は採用せず、競技大会の Web サイト上に設置した「アドバンストコース情報掲示板」に、大会開始時刻の直前にパスワードを掲載（開示）し、参加者が当該掲示板にアクセスすることで、確実にパスワードを通知するとともに、全参加者が同一時刻に一齐に試験を開始でき、公平性を担保することが可能となる方法を採用しました。

<商用特許検索 DB の利用>

競技大会問題における設問のうち、検索（サーチ）作業を実施しながら解答を作成する設問があり、この作業では、J-PlatPat の他に主催者が指定する商用特許検索 DB のうち事前に選択した 2 つの DB を利用することができます。

利用可能な商用特許検索 DB 一覧（2021 大会）

- 01 : CKS Web
- 02 : CyberPatent Desk
- 03 : Derwent Innovation
- 04 : HYPAT-i2
- 05 : Japio-GPG/FX
- 06 : JP-NET
- 07 : LexisNexis Total Patent One
- 08 : Orbit Intelligence
- 09 : PatBase
- 10 : Patent Integration
- 11 : Patent SQUARE
- 12 : PatSnap
- 13 : Shareresearch
- 14 : SRPARTNER
- 15 : STNext

2 特許検索競技大会の紹介記事 Japio YEAR BOOK2019

リモート開催では、上記の利用可能な商用特許検索DBは、原則、参加者自身で用意（勤務先と商用特許検索DB提供事業者間で利用契約しているログインID及びパスワードの保有者に限り）してもらうこととしていますが、自身で用意することができない参加者には、DB提供事業者のご厚意により、主催者が競技大会参加者用として一時的に借り受けたログインID等を、参加者に貸与して利用することができます。

なお、参加者は、大会事務局の監視の目が行き届かない自宅や勤務先から参加するため、貸与される商用特許検索DBのログインID等については競技大会への参加目的以外での利用や、提供先から第三者への又貸し等の不正使用の禁止をDB提供事業者から強く求められています。この様な不正使用を防止するため、参加者に対して禁止事項を注意喚起すると共に、ログインID等はパスワード保護した上で、参加者にE-Mailの添付ファイルにて事前送信しました。

<商用特許検索DBのログインID等の管理>

商用特許検索DBのログインID等の提供では、参加者本人以外の者に情報が漏れないようにすることは勿論ですが、参加者に当該情報の提供先が限定されていることを認識してもらい、提供情報に関する適切な保管と管理を行っていただく必要があります。そこで、先行して送付した商用特許検索DBのログインID等の解錠に使用するパスワードの提供は、参加者本人が受領したことが記録に残る、書留郵便を使用して通知する方法を採用しました。

これにより、本人以外が知り得ることができない方法で通知することで、参加者自身に適切な管理を促しています。

(4) リモート開催の課題

今回初めてリモート開催による競技大会を実施することができましたが、大きな課題も浮かび上がっています。特に、参加者の自宅等からの受験において、なりすまし受験や参加者の不正行為の監視ができないことが挙げられます。

過去の競技大会における参加者へのアンケート調査結果によれば、競技大会参加者の中で最も多い特許調査従事者（サーチャー）が競技大会への参加の目的として回

答したのは、成績優秀者に授与される認定証の交付でした。しかし、競技大会は参加者が有する自己の調査能力を競うものであり、公平・公正な受験環境の下で受験した参加者の中から成績上位者を認定する必要があることから、大会事務局員が参加者の不正行為等を監視することができない「リモート開催」では、残念ながら認定証の交付は行うことができませんでした。

3 特許検索競技大会の今後のチャレンジ

<コロナ禍における競技大会のあり方>

競技大会は、コロナ禍により今後も会場開催については先行きの見通しが立たない状況ではありますが、成績優秀者として認定されることを目標等にして参加される方の要望に応えるためにも、リモート開催、会場開催のあり方について、他の認定試験や資格試験等のコロナ禍における実施状況等を踏まえつつ、以下の検討を行っていきたく考えております。

特許検索競技大会の開催において検討が必要な事項

- ☞ 競技大会専用オンライン試験システム及びオンライン試験監督システムの検討
- ☞ 会場開催での徹底した感染症予防対策

<競技大会のさらなる活性化>

特許検索競技大会への参加者は、IPCCが主催となった2013年度より年を重ねるごとに増大してきており、2019年度までにアドバンストコースには、956名（延べ2,093名）の方に参加いただきました。これらの参加者のうちこれまでの競技大会で37名（延べ51名）の方がゴールド認定を受けておりますが、残念ながら全選択分野（電気、機械、化学・医薬の3分野）で認定

表1 ゴールド認定率

開催年度	大会参加者数	選択分野			ゴールド認定者数	ゴールド認定率
		電気	機械	化学・医薬		
2013年	175名	87	49	39	6名	3.4%
2014年	212名	80	71	61	5名	2.4%
2015年	285名	118	92	75	9名	3.2%
2016年	325名	156	73	96	5名	1.5%
2017年	339名	127	112	100	6名	1.8%
2018年	369名	130	135	104	13名	3.5%
2019年	388名	135	138	115	7名	1.8%



を受けた方は未だおりません。

しかしながら、ここ数年、2つの分野でゴールド認定を受けた方が現れ始め、これまでに9名が3分野完全制覇へ王手を掛けています。該当者9名のうち、6名の方から特許検索競技大会との向き合い方や日々の業務スキルアップへの活用方法、そして3分野ゴールド認定を受けるための対策等についてご寄稿³いただきましたので以下にご紹介いたします。こうした熱い思いに応え、サーチャーの皆さんの日頃の研鑽に報いるためにも、競技大会において成績優秀者が認定を受けられることが強く求められています。

畔上 英樹氏（機械分野、化学・医薬分野）

特許業務法人オンダ国際特許事務所

尼崎 浩史氏（電気分野、化学・医薬分野）

インフォストラテジー特許事務所

垣岡 武範氏（電気分野、機械分野）

トヨタテクニカルディベロップメント株式会社

静野 健一氏（電気分野、機械分野）

アズテック株式会社

堤 奈緒子氏（電気分野、機械分野）

トヨタテクニカルディベロップメント株式会社

宮本 裕史氏（機械分野、化学・医薬分野）

富士フイルム知財情報リサーチ株式会社

（五十音順、括弧内はゴールド認定済み分野）

4 おわりに

特許検索競技大会は、新型コロナウイルスの影響により、2020年度は大会そのものの開催中止、2021年度大会は会場開催形式での中止を余儀なくされましたが、冒頭述べたとおり、企業活動や生活様式がニューノーマルな時代に変革してきているのに合わせて、本競技大会でも「リモート開催」の創設を端緒として、今後もウィズコロナ・アフターコロナ時代に適応していくため、オンライン試験システムやAI等を活用した不正監視システムの利用等、参加者が安全かつ安心に競技大会へ臨める大会運営を目指してまいります。

参加者数の推移(アドバンスコース)

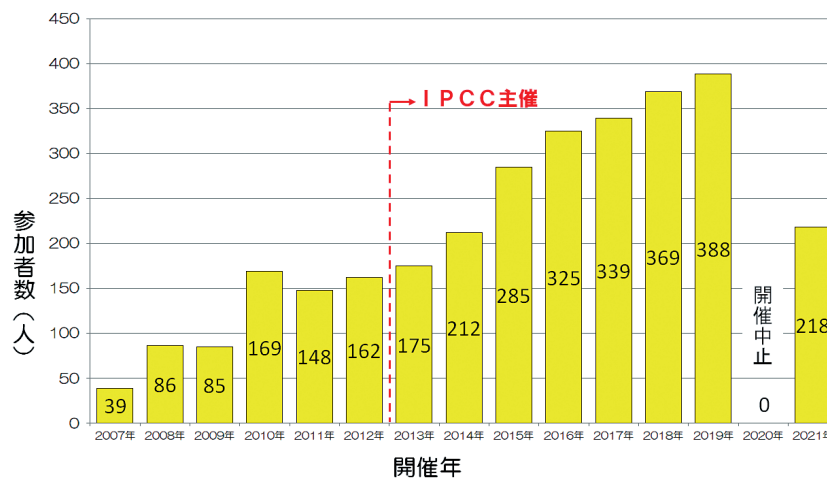


図3 参加者数の推移(アドバンスコース)

3 特許検索競技大会 特別寄稿
https://www.ipcc.or.jp/contest/wp-content/uploads/2021/06/specialcontribution_triplecrown.pdf



1 特許情報施策および事業

